



『2013年度総括』 OBG会長 牧野

2013年度の最大のトピックは男子部の一部昇格です。長らく2部で戦い、1部との入れ替え戦に挑戦することは何度もありましたが、その都度1部の壁に跳ね返されてきました。それが念願かない1部に復帰することができました。これは監督はじめ現役部員の努力のたまもだと思います。伊勢原コートに夜間照明設備を設置していただいた大学の援助にも感謝しています。

今回の男子部昇格で、一昨年執り行ったテニス部男子部創部50周年・女子部創部25周年記念式典に続き念願であった男女とも1部を実現できたことを大変うれしく思っています。現在男女とも1部は、早稲田大学・慶応大学とわが専修大学だけです。

50周年記念式典はただ区切りとして行うのではなく、この式典を起点として更なるテニス部の発展を目指していました。その時今後50年の目標を、男女共に王座優勝としました。今回の男子部昇格でそれに少しでも近づいたものと実感しています。

そこでOBG会としても、男女とも1部にふさわしい体制にする必要があります。具体的にはさらに現役を金銭的に援助することです。OB・OG合わせて現在330人ほど会員がいますが、OBG会費を納入していただいているのはその内の50人程度です。

聞き及んでいるところでは慶応大学ではOB会費の残高が1億円を超えているとのこと。そのような大学と対等に戦うためには更なる援助が必要です。まだOBG会費の自動引き落とし制度に申し込みされていない方は是非申し込み申請をお願いします。

次回のリーグ戦では、男女とも1部の同じ会場で試合を行うこととなります。現在の現役の悩みは部員数の不足です。審判等で人員を出すと応援の人数がなくなってしまいます。OBGの方で時間に都合のつく方は是非会場の有明テニスの森公園まで足を運んでいただき応援をお願いいたします。

今後ともOB・OGの皆様の更なるご支援をよろしくお願いいたします。

『テニスを通じて大きく成長してほしい』 専修大学体育会テニス部 部長 徳田賢二

(経済学部教授)

OB、OG各位の日頃のご支援、応援を感謝しております。

女子部は平田大輔監督の指導のもと、小川実香主将、木内美優主務を中心にライバル校と激闘を繰り返し、2部立教大学との入替戦でも力の差を見せつけ1部残留することができました。現在、下川花主将、中東涼子主務のもと再び王座復帰を目指して試合、練習に励んでいます。一部常連校としての座をさらに揺るぎないものにすべく精進しています。

また周知のとおり、男子部は岡洋一郎監督の指導の下、16年ぶりに一部昇格を果たしました。野原鴻主将、町田周太郎主務の支え、現役部員の頑張り、先輩の応援、ご家族の支えなど、皆の力が結集された結果です。本藤優主将、町田周太郎主務のもとで、この座を死守すべく一丸となって試合、練習に励んでいます。

男女両方一部校は早大、慶大と専大だけです。この座を後輩たちに守ってもらいたいと願っています。私はテニス部の部長として、指導者、テニス部員にとって満足できるテニス環境を実現できるように、またテニス部員のかげがえのない大学生活が実りあるものになるように、全力を挙げて支援する所存です。

OB、OGの方々、一層の応援・支援、よろしくお願いいたします。

『2013年総括』 男子テニス部 監督 岡洋一郎

まずはじめに応援してくださいました松本先生、OBの皆様、徳田先生、トレーナーの赤坂さん、中澤さん、そしてご父兄の皆様、この場を借りて改めて御礼を申し上げます。
おかげさまで男子テニス部はついに19年ぶりに一部復活を果たすことができました。

就任して9年目になりますが、入れ替え戦は過去5回果たせず今回で6回目。リーグ戦前、今年は下入れ替えも昇格もどちらも可能性があるチームだと学生には伝えていました。実際春関本戦には過去最高8人が出場しましたが、同じように2部の大学からの出場者が多く激戦予想されるものとなっていたし、部内の問題もあったからでした。

2部リーグでは第1戦こそ7-2で勝利するものの、第2戦上武戦では2日間かかって、後1ゲーム落としたらチームの負けというところからの逆転勝ち、第3戦青学戦もダブルス0-3という状況からシングルス6本取るという前例のない勝ち方でしのいだものの、東海戦ではついにその戦い方も通じず、一敗を記した。最終戦全勝の中央に対して勝つしかない状況の中、ダブルスは0-2、D1もファーストを落としセカンドタイブレ2-5から1本を取る。シングルスも資格的には完全に不利な中、NO1にかかり最後は棄権勝ちを得て、1敗の東海が最下位の上武に負けたため、結果的に1位通過となった。

入れ替え戦は3度目の対戦となる日大。最終戦からのNO1金城の怪我が回復せず、不安要素はあったものの、2部を奇跡的に勝ち抜いてきたことで、不思議と気負うような雰囲気はありませんでした。2部リーグの結果も踏まえ、ダブルスは1金城、石井以外野原、矢崎、夏目、野口組はリーグでは初のペアで挑むこととした。資格的にダブルスは日大を上まっていたので、チャンスのダブルスで3-0ではじめて互角と考えていたが、3ペアともファーストアップするも結果的には2-1で折り返すこととなった。石井が故障し、急遽オーダーを変えることになったが、それが劇的な勝利の布石になったのかは誰もわからないが、6大野5大塚と惜しくも負け4野口もファーストを落としていた。3本藤も破れ、2夏目もその時ファースト2-6となっていた。圧倒的不利の状況であるが、野口がトレーナーを入れながら勝利し、夏目もセカンドを取り返した。ファイナルセットは先にブレイクポイントがあったもののしのがれ、キープキープでついていく形となった。タイブレーク2-3でDF、次も攻め込まれたが相手バックボレーが運良く白帯に当たり、3-4、4-4、4-5後2本セカンドサーブ&ボレーで取る。最後相手のセンターサーブがDFで勝ちが決まった。直後金城は6-1、5-1でサーブだったが、プレッシャーで5-4まで追いつかれるも、最後は相手のスマッシュミスを誘いチームが勝ち、すなわち19年ぶりの一部昇格が決まった。

悲願の一部復帰を果たすことができたが、御覧のように再現性は低く、奇跡的な勝ち上がりであったことは周知のとおりです。ただ学生が主体的に活動できたことも事実。これから先輩が残してくれたステージに悔いなく臨んでいけるように、テニスを通じて様々なことを学びながら、応援して下さる皆様にもさらに認めていただけるように活動してまいります。

これからもテニス部を
宜しくお願い致します。



『2013年度総括』

専修大学 文学部 准教授
専修大学 女子テニス部 監督
平田 大輔
GM 佐藤 雅幸

OB、OG各位の日頃のご支援、応援を感謝申し上げます。

2013年は佐藤先生から監督を引き継いだ2年目。王座優勝を目指し、選手は一生懸命戦いました。しかし、昨年度と同様の5位という結果に終わってしまいました。しかし、入れ替え戦では1部で戦ってきた意地と誇りを胸に戦い残留することが出来ました。

女子の入れ替え戦の前日は、男子が1部との入れ替え戦で19年ぶりの一部昇格を果たしました。私も含め、女子部員も1部昇格の瞬間に立ち会えたことは、自分たちの入れ替え戦にも勇気をもらいました。

2014年の関東大学リーグは有明テニスの森公園での男女同会場になります。もしかしたら、改修のため今の有明テニスの森公園で行う最後のリーグ戦になるかもしれない今年に、男女同じ会場で戦うことができることはそうないことなのかもしれません。今年度、一部リーグに所属している大学は早稲田大学、慶應義塾大学、専修大学の3校です。その中に専修大学がいるということを自信にし、お互いに切磋琢磨してリーグ戦ではよい結果が残せるように練習して行きたいと思います。

新体制では選手として王座に選手として出場した学生はいませんが、新4年生は1年生から主軸としてリーグ戦に出場していた学生です。それまでの経験を下級生に示し、今年こそは王座に出場し、優勝すること、個人においても学生の試合だけでなく全日本、世界を目指す選手になって欲しいと思います。そのためチーム 全員で団結し、練習に励んでいきたいと思います。



『2013年度主な活動結果』 男子テニス部 主将 本藤 優

【関東大学対抗戦】

3年連続2部1位通過。1部リーグ、日本大学との入れ替え戦で5-4で勝利！
19年ぶりの1部復帰を果たしました。

【春の関東学生テニス選手権大会】

◎シングルス:21名参加中、9名が本戦出場(野原、夏目、金城、本藤、石井、佐野、野口、大塚)
◎ダブルス:10組参加中、3ペアが本戦出場(金城・夏目。野原・矢崎。石井・野口)

【全日本学生テニス選手権大会】

◎シングルス 本戦出場1人(金城) 予選出場4名(夏目、本藤、野口、大塚)
◎ダブルス 本戦出場1組(金城・夏目)予選出場1組(野原・矢崎) 金城・夏目ペア ベスト8

【関東学生新進テニス選手権】

◎シングルス 15名参加中、3人が本戦出場(本藤、野口、大塚)
◎ダブルス 7組参加中、3組が本戦出場(本藤・矢崎。佐野・大塚。野口・吉田)

【意気込み】

いつも、暖かいご支援・ご声援ありがとうございます。

19年ぶりに1部昇格を果たし、とても嬉しく思う反面、気持ちを引き締めて1部としての振る舞いや結果を出さなければいけないと強く思います。

また、1部リーグに上がったことで王座を狙えるスタートラインに立てたと思うので王座という目標に向けてチーム一丸となって、突っ走りたいと思います！

これからも、ご支援・ご声援の方よろしくお願い致します。



『2013年度主な活動結果』 女子テニス部 主将 下川 花

《関東大学テニスリーグ》 第1部リーグ5位

《秋季関東大学対抗戦》 4位

《春の関東学生テニス選手権》

◎シングルス: 参加13名中6名が本戦出場

◎ダブルス: 参加7ペア中4ペアが本戦出場

(3年金子真理子・2年入江真子組: ベスト8)

《夏の関東学生テニス選手権》

◎ダブルス: (3年金子真理子・2年入江真子組: 準優勝)

《全日本学生テニス選手権》

◎シングルス: 3名が本戦出場

(3年下川花、3年中東涼子、3年金子真理子)

◎ダブルス: 2ペアが本戦出場

(3年金子・2年入江組、3年下川・1年清水組)

昨年の9月に行われました関東リーグでは1部5位となり、2部との入れ替え戦にかかってしまいました。

入れ替え戦では5-2で勝利し1部残留することができましたが、「王座優勝」を目標にしていた私たちにとって、とても悔しい結果となりました。昨年の悔しい思いを忘れずに、今年こそは「王座復帰」「王座優勝」という目標を果たす為、部員一同練習に励んでいきたいと思っております。

今後とも、一層のご支援、ご鞭撻を受け賜われますようお願い申し上げます。